# 如水会寄附講義
# 「社会実践論」講義要綱
## （2017年度春夏学期）

講義責任者：筒井　泉雄

如水会寄附講義「社会実践論」は、一橋大学を卒業後、社会の第一線で活躍している同窓生13人によるオムニバス形式の授業です。

一橋大学の卒業生は、金融、商社、製造業といった分野にとどまらず、実に様々な分野で活躍しています。こうした先輩たちは、どのような学生時代を送っていたのでしょうか。卒業後はどのような成功や失敗あるいは転機を経て、「今」があるのでしょうか。その過程で培われてきた職業観や価値観とは？

先輩たちの辿った多様な道を知ることは、仕事の分野は異なってもその根底に流れる「仕事に取り組む上での基本的な考え方や態度とは何か」を知ることになるでしょう。それは更に、我々は何のために社会科学を学ぶのか、社会科学は社会の諸問題の解決にどんな役割が果たせるのか、を学ぶことにもつながります。

授業では、一方的に講義を聴くだけではなく、質疑応答やグループディスカッション、更には感想文を記述する時間も設けます。講義内容を反芻し、自身に照らし合わせ、自分の考えや受け止め方を言葉や文章にしてアウトプットする作業を通じ、講義内で得た学びや気づきを確実に自分の中に落とし込みます。

キャプテンズ・オブ・インダストリーとして活躍する先輩の経験に裏打ちされた職業意識や人生哲学に触れ、その姿に自分たちの将来像を投影することで、大学生の間に学んでおくことは何か、この先の人生をどう進んでいくべきか、限りない可能性を秘めた未来に何ができるかを考える上での道標となる講義です。

| | 日付 | テーマ | 講師 |
|---|---|---|---|
| 第1回 | 4月　11日　（火） | 一橋大学と如水会 | 岡田　円治 |
| 第2回 | 4月　18日　（火） | 公認会計士という職業～その魅力と将来性について | 梅木　典子 |
| 第3回 | 4月　25日　（火） | 地域に生きる　地域に学ぶ | 望月　健一 |
| 第4回 | 5月　2日　（火） | 司法過疎地における原発震災～被災地における法律家の役割～ | 渡辺　淑彦 |
| 第5回 | 5月　9日　（火） | 未来の文脈を考える | 山本　統一 |
| 第6回 | 5月　16日　（火） | 2045年の未来とこれからの僕達の生き方・働き方 | 安川　新一郎 |
| 第7回 | 5月　30日　（火） | しくじりから得た教訓と、自分の道の選び方 | 藤村　希 |
| 第8回 | 6月　6日　（火） | 学問としての経営、実践としての経営 | 藤原　泰輔 |
| 第9回 | 6月　13日　（火） | 「会社員」としての自分 | 関　理恵子 |
| 第10回 | 6月　20日　（火） | 「挑戦と創造」にチャレンジし続けて | 桑田　和弥 |
| 第11回 | 6月　27日　（火） | 人間万事塞翁が馬 | 石井　俊之 |
| 第12回 | 7月　4日　（火） | Self-Authorship - 自分の人生を自分で描くということ | 橋本　暢子 |
| 第13回 | 7月　11日　（火） | 自分のために　日本のために　世界のために | 河合　真由美 |

第1回　4月11日（火）

テーマ：一橋大学と如水会
講　師：岡田　円治　　経済学部・昭和48年（1973年）卒
一般社団法人　如水会　理事・事務局長

社会実践論第1回は、「一橋大学とは何か？」です。大学の歴史は「波乱に満ちた歴史」です。その波乱の歴史の中で、育まれ、成長していった社会科学系総合大学一橋大学の精神は、日本の近代化、高度に発展した経済国家への道のりと軌を一にしたものでもあります。大学と不即不離の如水会は、その過程でどのような役割を果たしてきているのか？通常の同窓会とは全く異なる如水会の存在と役割についても考えます。42年間のNHK人生の中で得たこと、ジャーナリズムの世界では、大学で学んだどの部分が、どのように生きるのか。単なる知識ではない、「考え方を学ぶことの大切さ」についても考えます。

第2回　4月18日（火）

テーマ：公認会計士という職業～その魅力と将来性について
講　師：梅木　典子　　商学部・平成4年（1992年）卒
ＰｗＣあらた有限責任監査法人
財務報告アドバイザリー部　パートナー　公認会計士

「公認会計士」は3大難関国家資格の一つと言われますが、その職業の実態はあまり一般の方には知られていません。資本市場における会計監査人の果たす役割はとても重要であり、職業的専門家としての仕事はやりがいがあります。「会計士試験に合格した後、どのような仕事をするのか？」といった疑問を持っている現役大学生の皆さんに、公認会計士の独占業務である監査業務を中心に実際の業務がどのように行われるのかをご紹介します。また、近年では、活躍するフィールドがますます広がっている公認会計士の将来性についてもご紹介するとともに、20年超にわたる会計士としてのキャリアを踏まえて、これから社会に出ていく一橋大学生の皆さんにキャリア構築におけるヒントをお話しします。

第3回　4月25日（火）

テーマ：地域に生きる　地域に学ぶ
講　師：望月　健一　　経済学部・平成8年（1996年）卒
国立市議会議員

置かれた場所で咲きなさい。自分が置かれている場所がどこであれ、自分の力を発揮できる場はいくらでもあります。一橋出身者の力は、グローバルな世界のみならず、ローカルな地域社会においても求められています。また、地域社会が抱える少子高齢化、格差の問題などから、現代の先進国共通の課題も浮かび上がってきます。挫折も何度もし、転がる石のような人生を送ってきた私です。しかし、今、地域の方に支えられ、地域の方に学び、ようやく自分の力を発揮する居場所を見出すことができました。一橋時代から現在に至る経緯、市議会議員という職務を紹介しながら、『転んでも大丈夫』、『地域に生きる　地域に学ぶ』ということを中心にみなさんとともに考える講義ができれば幸いです。

第4回　5月　2日（火）

テーマ：司法過疎地における原発震災～被災地における法律家の役割～
講　師：渡辺　淑彦　　法学部・平成7年（1995年）卒
福島県いわき市　「浜通り法律事務所」所長
弁護士

長年司法アクセス問題に取り組んできました。司法を利用しようとする人が日本中どこに住んでいても、良質なサービスを受けることができる社会づくりを目指して活動してきました。日本では、司法による助けを必要とする人の地域社会に弁護士が足りないとか、アクセスできないことが少なくありません。地方の弁護士が日々どのような問題に取り組み、地域社会のインフラとして活躍しているのか、そのやりがいを知って頂きたいと思います。また、原発事故は、単に損害賠償というレベルにとどまらず、様々な社会的問題を誘発しています。次の時代を生きる皆さんに、原発被害の甚大性・継続性・広範性を知って頂くとともに、自分たち自身の問題として関心を持って頂ければと思います。

第5回　5月　9日（火）

テーマ：未来の文脈を考える
講　師：山本　統一　　社会学部・昭和62年（1987年）卒
株式会社ユニソンパートナーズ　代表取締役

一橋大学を卒業し都市銀行に16年勤めた後、コンサルティングを主業とする会社を14年営んでいます。さて、この30年の間に何度も「未曾有の」とか、「想定外の」とか、「100年に一度の」、「数百年に一度の」、でき事がありました。ベルリンの壁、バブル崩壊、911、リーマンショック、東日本大震災等々。しかし、起こったでき事は後から見れば明確な文脈が存在します。なぜ予見できなかったのでしょうか？予見できなかった理由、未来を洞察する術を研究しなければ、われわれはいつまでも何度も同じことを繰り返してしまうのではないでしょうか？今一番必要なことは、過去から未来につながる文脈を読み、能動的に物語を構築する力だと思っています。問題意識を若い皆さんとシェアできればうれしいです。

第6回　5月16日（火）

テーマ：2045年の未来とこれからの僕達の生き方・働き方
講　師：安川　新一郎　　経済学部・平成3年（1991年）卒
グレートジャーニー合同会社　代表
東京都顧問

卒業後、マッキンゼー、ソフトバンク、ベンチャー投資家、東京都顧問として、常にイノベーションに触れ少し先の未来を予測し社会課題を解決していく仕事に従事してきました。日本を代表する大企業の経営破綻、トランプ大統領やBrexitなど民主主義の変調、AI/Robot等の急速な技術進化など先行きのみえない時代の中で、世界は今後どう変わっていくのか、卒業後自分たちの仕事はどうなるのか、どのように生きていけば良いのか、これらの課題について、認知革命、農業革命、産業革命、情報革命の人類のイノベーションの歴史や社会科学の知見から来たるべき2045年の未来を認識し、これからのライフスタイル・ワークスタイルのあり方について考えます。

第7回　5月30日（火）

テーマ：しくじりから得た教訓と、自分の道の選び方
講　師：藤村　希　　商学部・平成14年（2002年）卒
パナソニック株式会社
東京オリンピック・パラリンピック推進本部　主務

私は数年前まで、自分の恵まれた環境に甘えたダメな人生を送ってきました。最小限の努力で、それなりの成果が得られる道を選ぶのが効率的で賢い生き方だと思っていたのです。しかし、出産、育児休暇後の仕事環境の変化、転職活動の失敗、入社以来関わっていた事業の縮小、グロービス経営大学院への入学といった様々な出来事を経て、私の人生観は大きく変化を遂げていきました。講義の前半部では、自分と向き合わなかった結果として生じた数々のしくじりと、後悔から得た教訓をお伝えします。後半は、保守的だった私が、どのように自分の進むべき道を見つけ、なぜ居心地のよいパナソニックを辞める決断をしたのかを、現在起業準備中の事業の内容も含めてご紹介します。

第8回　6月　6日（火）

テーマ：学問としての経営、実践としての経営
講　師：藤原　泰輔　　商学部・平成4年（1992年）卒、
商学研究科修士課程・平成6年（1994年）修了、
株式会社ピー・アンド・イー・ディレクションズ　取締役

私は学部及び大学院で学問として経営にふれました。そして、現在は経営コンサルタントとしてクライアントの成長を支援するという点で、そして自社の取締役として経営を実践する立場にいます。会社設立後、どのようにしてお客様を捕まえていったのか。会社が大きくなるとどのような問題が発生し、それをどのように乗り切ったのか。さらに大きく成長するには何が必要か。クライアントや当社のこれまでの成長経緯をケーススタディにしながら、経営の教科書には書かれていないような実践知も含めてお話しします。また、将来、競争力のあるビジネスマン、ひいては社会に役立つ人間になるために、学生としてどのような意識やスタンスを持てばいいのかについても講義の中で触れていきたいと考えています。

第9回　6月13日（火）

テーマ：「会社員」としての自分
講　師：関　理恵子　　経済学部・平成9年（1997年）卒
損害保険ジャパン日本興亜株式会社　リテール商品業務部 課長

今から20年前、私が就職活動をしていた頃、周りは「会社の歯車になりたくない」と言い、「自分が成長できる場所」を探して、氷河期と呼ばれた厳しい時期を走り回っていました。まだ女性の総合職志望者は少なく、「結婚したら仕事はどうしますか？」と普通に聞かれていた時代でした。今、世の中も会社も大きく変わり、まだその変化は始まったばかりです。この世の中に希望をもってこれから出ていこうという皆さんに、1人の先輩として、大学4年間、損害保険会社での20年間をどのように過ごし、「会社員」とは何か、そしてこれから私が考える「会社員」として目指す姿をお伝えしたいと思います。皆さんにとって将来を考える材料の一部にでもなれば幸いです。

第10回　6月20日（火）

テーマ：「挑戦と創造」にチャレンジし続けて
講　師：桑田　和弥　　法学部・平成元年（1989年）卒
三井物産株式会社　機械インフラ業務部　次長

物産に入社し4年目のこと、スペイン語を一言も話せない私は、NAFTA締結で経済成長の期待に湧くメキシコ・ロースクールに留学し同国のビジネス法を徹底的に勉強してくる様に命じられました。 NY勤務時代は、仕事の傍ら、米国ロースクールの夜間部に自費通学、学究肌ではない自分なのに、社会人になってから、学ぶことへの意欲が一段と強くなったと感じています。なぜ学ぶのか。ずばり、自分の視野や知見・分析力を鍛え、商社の事業活動を通じて、社会に、そして世界にしっかりと貢献したいという強い気持ち（信念）を抱き続けてきたからだと思っています。 私は商社マン・国際弁護士として、米国シェールガス買収、メキシコ湾原油流出事故、モザンビークLNG開発等の大型重要案件を担当してきました。 本講義では、皆さんに、私が世界で実際に見てきた経験や修羅場の数々をお話し、一橋大学で学ぶことの大切さや素晴らしさを是非お伝えできればと考えています。

第11回　6月27日（火）

テーマ：人間万事塞翁が馬
講　師：石井　俊之　　経済学部・平成元年（1989年）卒
アステラス製薬株式会社 事業開発部部長

大学時代は体育会バレーボール部で青春を満喫。体育会枠（おそらく）で三菱商事に就職(1989年)。商社マン・ライフを満喫するがキャリアとしては将来に興味が持てず退社。法曹を目指し勉強しつつ塾居生活を送る。30歳半ばで山之内製薬（当時）法務部にキャリア採用で入社(2001年)。数年後、山之内製薬と藤沢薬品工業（当時）との合併プロジェクトに参画、これにより誕生したアステラス製薬にてロンドン駐在(2005年)。帰国後、広報部を経て、現在、事業開発部部長。製薬業界に入って以降、主な仕事はM&A。キャリアは紆余曲折だが、生き方としては常にストレート（正攻法）のつもり。学生の皆さんには、50歳にして実感する“キャリア”の考え方について思うところを伝えたい。

第12回　7月　4日（火）

テーマ：Self-Authorship － 自分の人生を自分で描くということ
講　師：橋本 暢子　　社会学部・平成3年（1991年）卒
ニューヨーク州立大学パーチェス校
キャリア・ディベロップメント・センター キャリア・カウンセラー

皆さんは「キャリア」と聞くと何を思い浮かべますか？いろいろなお答えがあると思いますが、そのどれもがその人にとっては正解です。でもひとつ考えていただきたいのが「Career = Life」ということ。別に「どこで」人生を描いていてもそれは同じです。専業主婦・主夫の方も同じ。学生さんも同じなのです。また、皆さんの中にはそれを「グローバルな」舞台で実現しようとしている方々がいます。私は履歴書上いわゆる「転職者」と呼ばれる人たちの一人です。国境は二回だけ越えました。そんな私にも、私の核となるストーリーがあります。それを少しお話しさせていただきながら、皆さんのストーリーを是非お聞きしたいです。

第13回　7月11日（火）

テーマ：自分のために　日本のために　世界のために
講　師：河合　真由美　　法学部・平成19年（2007）卒
外務省　軍縮不拡散・科学部　不拡散・科学原子力課　課長補佐

皆さんは10年後、どこでどのような仕事をしていたいですか？一橋を卒業して漸く10年が経ちました。政治・経済・社会・文化といったあらゆる分野で世界との繋がりを意識せずにいられない現在、いかなる仕事に就いても国際社会との接点が存在します。国と国との利害関係が益々複雑に絡み合う世界の中で、いかに日本の安全と繁栄を確保するか。国際協力、国連、軍縮・不拡散といった切り口から、日本外交における課題にふれつつ、これまで10年間の外交官兼霞ヶ関の国家公務員としての社会人経験から得られた知識や経験を、学生時代の反省を踏まえつつご紹介できればと思います。